

令和8年度 学 校 経 営 計 画

1 学校教育目標

- ア 真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身ともに健全な生徒の育成を目指す。
- イ 自ら学ぶ意欲と、主体的に考え判断し行動できる資質や能力の育成を図る。

校訓「勉学 礼儀と品位 勤労・責任・協同」

2 学校の特徴

本校は創立 104 年を迎える普通科、農業科の 2 学科からなる地域に根ざした高校である。令和 2 年に泊高校と再編統合し新高校としてスタートした。これまで地域の方々から、明るい元気な学校、勉強と部活動の両立に励む学校として評価され、厚い信頼を得ている。

普通科は、生徒の進路希望を実現するため、1 年次から 3 年間を見通した、きめ細かな学習指導、進路指導を行っている。2 年次から文系・観光ビジネスコース・理系・自然科学コースを設けている。観光ビジネスコースでは、「地域を学ぶ、地域で学ぶ」をテーマに、地域の自然・文化・歴史・産業・交通・ひとなど地域の観光資源を調査し、発信する活動を行う。地域を眺める多様な視点の獲得と、地域を変える挑戦を通して、自ら課題を発見し、解決する力を養うことを目標に探究活動に取り組んでいる。自然科学コースでは、学校設定科目「サイエンス」や立山研修・特別講座などの学習を通して、科学を学び体験する喜びを感じ、科学的な考察力・探究心が育まれる活動を行っている。また、文系・理系においても総合的な探究の時間に、探究心・表現力の育成を図っている。

農業科は、教育方針として①自然に学び大地と生きて未来を育む、②地球環境を守り、地域資源の活用を図る、③グローバルな視点を育てる、④3 年間の高校生活を段階に応じた教育内容で組み立てる、の 4 つを掲げ、産業構造の変化、技術の進展等に柔軟に対応できる意欲的実践力を備えた国際感覚豊かな農業経営者や、関連産業に従事する人材ならびに農業理解者の育成に務めている。今年度から入高式デュアルシステム型長期委託実習を 2 年次に実施しキャリア教育充実を図る。

部活動は、運動部・文化部ともに意欲的に活動している。特に陸上競技部・ソフトテニス部・アーチェリー部・吹奏楽部などは北信越大会や全国大会への出場を目指して練習に励んでおり、成果をあげている。

3 学校の現状と課題

本校生徒は、素直で礼儀正しく、明るく活発な生徒が多いと評価される一方で、課題として、学習に対する積極性について不足する傾向にあること、規範意識の低い生徒が増加していることの 2 点が指摘されている。

前者については、生徒の実態に応じた分かりやすい授業、主体的・対話的で深い学びの構築を進め、体験型学習や探究活動を通じて、生徒が自ら学び、自ら考える自己教育力の育成に努める。普通科の観光ビジネスコースと自然科学コースではフィールドワークや県内大学や研究機関との各種調査研究、農業科では入善町や農協、地元農家と連携した地域密着型の体験学習、就業体験、課題研究を行うなど、両科ともに地域との連携のもと、豊かな経験と人間性に基づいた学習に対する積極性を育成していく。

後者については、現代の社会通念に即した校則へ見直すこともあるが、一律の禁止から TPO に応じた自己判断力をつけさせる教育へ転換させる。そして、地域社会に協力を仰ぎ、「監視する目」から「見守る目」になってもらうよう努める。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動 重点1	目標	○ 生徒の実態に応じた分かりやすい授業を行う ○ 主体的・対話的で深い学びを構築する
		計画	・ 普通科では、1 学年で共通科目を履修させ、2 学年から類型別カリキュラムを編成し、文系、観光ビジネスコース、理系、自然科学コースに分ける。 ・ 普通科2・3 学年のカリキュラム編成は特色ある教育活動となるように配慮し、授業の展開や科目設定を工夫する。 ・ 農業科では、体験的な学習、課題解決学習を通して専門的知識の習得や技術の向上を図るとともに、職業人としての資質を育成する。 ・ <u>授業実践において、生徒が主体的に考え、他の生徒と対話や議論をすることで学びを深める場面を設定する。また、生徒が自分の興味・関心に応じて学ぶことができるよう、ICT 機器や、生成 AI を含む教材研究を充実させる。</u>
(2)	学校生活 重点5	目標	○ 自発的・自律的活動を推進することにより、住みよい社会の建設に参加していく態度を養う ○ 規律を守り礼儀と品位を重んじる態度と自他敬愛の精神を養う
		計画	・ 生徒自治委員会、交通安全委員会の活動と連携しながら、交通安全に対する意識の向上を目指す。 ・ <u>集団での活動や地域活動を通して、本校生としての望ましい在り方を自覚させる。</u> ・ <u>「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒を育成する。</u> ・ <u>SNS 等の正しい使い方やルール等を指導し、スマートフォンの節度ある使用ができる生徒の育成を図る。</u>
(3)	進路支援	目標	○ 正しい自己理解に基づき、生徒自らが進路目標を設定し、学習等の活動に主体的に取り組むことができるように指導・援助する ○ 進路目標実現のために、基本的な学習態度の育成を図り、学力や資質の向上を目指す
		計画	・ 進路目標達成のために、学習指導や個別指導（推薦指導）を工夫し、全校規模での取り組みの強化を図る。 ・ 学習実態や、学習の到達度（模試結果など）を通して生徒の実態を把握し、データを活用した個人面談を実施することで、早期に自らの「進路目標」を設定させるためのサポート体制を充実させる。 ・ 3 年間を見通した進路計画をもとに、各時期ごとに応じた進路ガイダンスや各種講座などを積極的に実施することで、生徒の進路意識を向上させ、自発的な学習意欲を育む。
(4)	特別活動 重点4	目標	○ 学校行事、部活動を通じて自主性や積極性を育む ○ 社会の一員として活躍する際に必要なコミュニケーション能力を育成する ○ 思想・志向が異なる他者と協働する能力を育む
		計画	・ <u>ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事など様々な集団活動を通して、学び合う楽しさや自己肯定感を高める。また、集団活動に自主的・実践的に取り組み、多様な人々と協働する態度を養う。</u> ・ 部活動やボランティア活動を通して、幅広い人間関係の中で互いに協力し、課題解決に向けて取り組むことで、よりよい集団の構築や社会への参画を目指す。

(5)	その他 (普通科コース) 重点2	目標	○ 体験型学習や探究活動を通じて、生徒が自ら学び、自ら考える自己教育力を育成する ○ 社会の一員として活躍する際に必要なコミュニケーション能力を育成する ○ 思想・志向が異なる他者と協働する能力を育む
		計画	・ 県や地域の教育機関・研究団体と連携しながらフィールドワーク型教育活動をすすめ、 <u>地域の文化・環境を身近に感じる心を育てるとともに、問いを深める力を養う。</u> ・ 様々な事象に興味を持ちながら、 <u>文理の枠を超えて課題研究に取り組み、科学的思考力を養う。</u>
(5)	その他 (農業科) 重点3	目標	○ 地域密着型の体験学習、就業体験、課題研究を行う ○ 社会の一員として活躍する際に必要なコミュニケーション能力を育成する ○ 思想・志向が異なる他者と協働する能力を育む
		計画	・ 体験的課題学習を推進するため、 <u>実験・実習を主とする科目において分割授業やグループ学習を実施しながら、個別指導の徹底を図り科学的思考力を育成する。</u> ・ 異校種交流では、小学校や支援学校、福祉施設との交流体験を通じて社会人として必要なコミュニケーション能力の育成を図り、 <u>主体的行動力を身につけさせる。</u>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

2026年度 入善高等学校アクションプラン —1—	
重点項目	学習活動 ～教科指導～
重点課題	深い学びにつながる授業づくりと自発的学習習慣の定着
現 状	・小テストや定期考査における「知識・理解」に関する設問では、事前に告知された範囲を丁寧に学習し、高得点を挙げる生徒が多い。一方で、授業における発問で、解答に至るまでの過程や根拠を示すよう求められたとき、うまく説明できる生徒は少ない。 ・中学校までの既習事項の定着が十分でないため、学習に対する意欲があっても授業に積極的に関わることはできない生徒が増えている。また、授業で学んだ解法や公式を一般化・抽象化し、概念的知識を導くことは苦手である。 ・自主学習のやり方を知らないため、家庭学習のほとんどは与えられた課題を仕上げることに費やされる。疑問に感じた点やよりよい解法を調べるなど、理解の深化に努める生徒は少ない。家庭学習の時間も減少する傾向にある。
達成目標	学校風土の現状把握の質問項目の ・ 8：この学校の授業は、わかりやすく、おもしろい ・ 9：この学校の授業は、学習への興味や意欲を引き起こしてくれる において、生徒の回答の平均値が2.5を超えること。 （評価基準：当てはまる3点、まあまあ当てはまる2点、あまり当てはまらない1点、当てはまらない0点）
方 策	・校種を問わず、他の教員の授業実践を見学し、授業改善に努める。また、主体的・対話的な活動（自己評価や生徒同士の相互評価などの振り返りを含む）を効果的に実施し、生徒が授業内容に興味を示したり発展的な学習に意欲を持ったりできるよう、工夫を凝らすことで、生徒目線の授業づくりに努める。 ・生徒にとっての「わかりやすさ」とは何かを追求し、各自が指標を持つ。また、日頃から「深い学び」への視野を広げ、各自の指導実践に活かす。 ・生徒に対し、学習の「動機付け」と「習慣付け」のための面談を、担任と教科担当者が協力して、計画的かつ継続的に行う。 ・シラバスで示した3観点別の到達度目標や評価方法を生徒と共有し、「成績評価」自体が学習の「動機付け」となるよう、指導と評価の一体化に努める。 ・ICT機器や教育用AIを効果的に活用し、生徒にとって個別・最適な指導が行われるよう努める。

2026年度 入善高等学校アクションプラン ―2―	
重点項目	その他 ～観光ビジネスコース・自然科学コースの充実～
重点課題	・ 地域と連携したフィールドワーク活動を通して、主体的行動力及びコミュニケーション能力を養う。 ・ 文理の枠を超えて課題研究に取り組み、科学的思考力を養う。
現 状	・ フィールドワーク活動の計画・立案において、生徒自らが主体となって実施しているとは言い難い。 ・ 地域の方との連携を行う際、中心となる生徒に偏りが見られ、生徒全員がコミュニケーション能力の向上につながっているとはいえない。 ・ 課題研究において、すでにある言説に沿った結論にこだわってしまい、自ら考えて導き出した結論を発表することができない生徒が多い。 ・ 取り組む課題研究が年度ごとの単発であることが多く、継続性に欠ける。そのため、より深い研究内容にはなっていない。 ・ 文理融合の題材や、教科横断的な題材のテーマ設定にはなっていない。
達成目標	学校風土の現状把握の質問項目の ・ 10：この学校の授業は、友だちとの間で話し合う活動をよく行っている ・ 11：この学校の総合的な探究の時間(課題研究)は楽しい において、生徒の答えの平均値が2.0を超えること。 (評価基準：当てはまる3点、まあまあ当てはまる2点、あまり当てはまらない1点、当てはまらない0点)
方 策	・ フィールドワークの日時、場所など、過去の実践例にこだわらず、生徒自らに計画をさせ、そこに教員が助言をする取り組みをする。 ・ 各班において、役割分担をしっかりとさせ、すべての生徒が地域の方々と接する機会を設ける。 ・ 中間発表会等を通して、いろいろな方から指導をいただき、自ら考えて導き出した結論が出せるようにする。 ・ 過去先輩方の研究を継続して引き継ぐ班を増やす。ICT機器を使って、データを一元的に管理し、共有することで、経験として得られたものが積み重なっていくことで、研究を継続しやすくする。 ・ 各教科において、教科横断型授業に適する単元をピックアップする。

2026年度 入善高等学校アクションプラン ―3―	
重点項目	その他 ～農業科の充実～
重点課題	体験型学習活動の推進と主体的行動力・指導力・科学的思考力の育成
現 状	・ 高校生活の3年間で9つの連続した学期として、継続的な教育を目指している。1年次は基礎的・基本的知識と技術の習得「慣れる」、2年次は興味・関心・意欲の向上「鍛える」、3年次は科学性・社会性・指導性・専門性の充実「磨く」を各学年の目標として3年間の学習の深化を図り、地域産業に貢献する人材育成を目指している。 ・ 約9割の生徒が非農家出身であり、農業体験に乏しい生徒が多いため、基礎的な学習や体験の重要性が増している。
達成目標	学校風土の現状把握の質問項目の ・ 11：この学校の課題研究の授業は楽しい ・ 40：私はこの学校で成長したり自信を深めたりしている で農業科生徒評価の平均値が2.3を超えること。 （評価基準：当てはまる3点、まあまあ当てはまる2点、あまり当てはまらない1点、当てはまらない0点）
方 策	・ 実習を取り入れた基礎的・基本的な学習を重視し、農業に対する関心と意欲の喚起を促す。体験学習では、作業目的を科学的に理解できるよう振り返り学習を行う。 ・ それぞれの学期での意義をしっかりと理解させ、主体的に行動できるよう指導する。 ・ 上級生としての自覚の育成、また仲間と協力して作業することで指導性を身につけさせる。 ・ 当番実習や販売実習、交流活動を通じて、責任感や積極性、対人関係能力などの職業能力の養成を図る。 ・ 課題研究においては地域農業の課題をテーマにするなど充実強化を図る。 ・ 地元の優れた農家などで、学ぶ機会を確保し、最新の農業（IoTの活用やスマート農業技術など）の導入・活用を目指し、生徒の学ぶ意欲を高める。

2026年度 入善高等学校アクションプラン ―4―	
重点項目	特別活動
重点課題	様々な集団活動を通して、学び合う楽しさや自己肯定感を高める。また、活動に自主的・実践的に取り組む中で、多様な人々と協同する態度を養う。
現 状	本校生は、校内では明るい挨拶や素直な対応が多くみられる。また与えられた役割にも誠実に取り組める。しかし、指示がなくても自ら考えて行動する力や互いにコミュニケーションを図りながら課題を解決する力については、経験不足や自身の行動や考えに自信が持てないため消極的な態度になりがちである。
達成目標	学校風土の現状把握の質問項目の ・33：私はこの学校のホームルーム活動が好きである ・34：私はこの学校の行事（体育大会、球技大会など）が好きである ・35：私は入高生として学校・地域の誰かや地域の役に立っている において、生徒の答えの平均値が2.3を超えること （評価基準：当てはまる3点、まあまあ当てはまる2点、あまり当てはまらない1点、当てはまらない0点）
方 策	・学校行事全体(体育大会、文化祭、ホームルーム)を通して、生徒会や担任、学年から提案したり、課題を取り上げたりする機会を設ける。様々な行事でディスカッションする場を設定し、リーダーづくりやディスカッションの方法について経験を積ませる。 ・部活動では定期的(長期休業前など)に部長・顧問会議を行い、より良い活動となるよう、部活動においての成果や課題を取り上げる場を設定する。 ・ボランティア活動に参加した生徒の活動の様子(写真)や事後の感想文などを掲示したり、生徒会誌へ掲載したりして全校生徒への啓発につなげる。 ・地域からの声(募集案内や活動後の感想など)を校内掲示やICT機器を活用して全校生徒に示すことで、地域貢献の意欲を高め、自己有用感につなげる。

2026年度 入善高等学校アクションプラン —5—	
重点項目	学校生活
重点課題	① 「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「制服」を正しく着用する生徒の育成。 ② スマートフォンの節度ある使用ができる生徒の育成。
現 状	・継続して「挨拶」と「正しい制服の着こなし」に重点を置いて指導している。廊下などで自ら挨拶をする生徒は多く、制服も全般的に正しく着こなししている。その一方で、授業では受け身的な挨拶に留まる生徒、TPOに応じた制服の着こなしや言葉遣い等の認識に課題を持つ生徒もあり、校訓「礼儀と品位」の定着に向けて学校全体で意識の向上を図る必要がある。 ・ほとんどの生徒が入学前からスマートフォンを所持している。SNSやゲームなど、夜遅くまでスマートフォンを手放せない生徒が多い。家庭学習時間が伸び悩む生徒や生徒間のトラブルの原因にスマートフォンが関係する場合も増えている。
達成目標	学校風土の現状把握の質問項目で、 ・ 15：この学校の決まりについて、意見を持ったり伝えたりできるを加える。また、 ・ 36：私は学校・クラスの決まりを守っている ・ 37：私はスマホの利用等、自分でメディアコントロールできている において、生徒の答えの平均値が2.0を超えること （評価基準：当てはまる3点、まあまあ当てはまる2点、あまり当てはまらない1点、当てはまらない0点）
方 策	・ 制服の着こなしやルールについて生徒、教員からアンケートを取り、改善できる点について検討する。 ・ 制服の着こなしが不十分な生徒に対し、全教員で声掛けをし、正しい着こなしができれば褒めることを、今年度も継続して行う。 ・ 生徒からの挨拶に教職員も明るい声で対応する。教職員からの声掛けを増やし、大人としての手本を示したうえで、生徒にも促す。 ・ 生徒自治委員会が中心となり、スマートフォンなどの様々なメディアとの付き合い方について啓発活動を行い、生徒の自覚を高める。 ・ 職員会議や生徒集会などを通して、TPOを意識した身だしなみと挨拶ができる入善高校生をめざすという意識を、共有する。